

唐田 順子 KARATA Noriko

研究分野：看護学

キーワード：母性看護学・助産学、子ども虐待、M-GTA



研究トピックス：

産科医療機関の看護職者の子ども虐待発生予防の研究

研究の要旨：

わが国ではほぼ全例が妊娠・出産管理を産科医療機関で行います。妊娠期から子育てのスタートに向けた支援を行うのが産科医療機関の医師や看護職者です。

子ども虐待の死亡事例は0歳児が最も多く約4～6割を占めます。乳児の虐待予防は早急に解決すべき重要な課題であるといえます。課題の克服には「妊娠期からの切れ目ない支援」が必要です。近年この「妊娠期からの切れ目ない支援」という用語をよく耳にしますが、母子保健、産科・小児・精神・救急医療、児童福祉の相互が連携し、真の意味の切れ目ない支援が必要とされています。特に発生予防においては産科医療機関で要支援親子を早期に発見し、母子保健・児童福祉機関と連携しての支援が必須であると考えます。「妊娠期の切れ目ない支援」において助産師・看護師はどのような役割を担うべきか、と考え研究に取り組んでいます。

これまで、産科医療機関の看護職者が要支援親子をどのように発見・情報提供し、連携が進展するか、そのプロセスをM-GTAを用いた質的研究で明らかにしました。その知見をもとに、産科医療機関の看護者に特化した教育プログラムを開発し、2日間の研修として実施し教育プログラムの効果と課題を検証する研究を進めています。



研修の風景

主な関連業績：

唐田順子、市江和子、濱松加寸子（2014）産科医療施設（総合病院）の看護職者が「気になる親子」を他機関への情報提供ケースとして確定するプロセス—乳幼児虐待予防を目指して—。日本看護研究学会誌, 37(2),49-61.

唐田順子、市江和子、濱松加寸子（2015）産科医療施設（総合病院）の看護職者が「気になる親子」の情報を提供してから他機関との連携が進展するプロセス—乳幼児虐待の発生予防を目指して—。日本看護研究学会誌, 38(5),1-12.

[教員紹介へのリンク](#)

[教員データベースへのリンク](#)